

## からだのための命の経験、成長、務め

(主日——午前の第一の部)

### メッセージ 7

#### 成長して円熟へと至り、召会の究極的完成としての新エルサレムとなる

聖書：ヘブル 11:10, 16. マタイ 16:18. 啓 21:2-3, 9-11, 18-20. エペソ 2:20-22.

I ペテロ 2:4-5. I コリント 3:9-10, 12. ヨハネ 14:1-12, 23

- I. 神は召会を建造するとき、新エルサレムを建造しています。わたしたちは成長して円熟へと至り、召会の究極的完成としての新エルサレムとなる必要があります——マタイ16:18. ヘブル6:1前半. 11:10, 16. 啓21:2-3, 9-11, 18-20. エペソ2:20-22. I ペテロ2:4-5. I コリント3:9-10, 12. ヨハネ14:1-12, 23:
- A. 神の働きの目標は、新エルサレムを得ることです。わたしたちの主は今日のダビデであり、わたしたちを神の建造のための造り変えられた材料として用意します。わたしたちの環境すべてにおける困難は、わたしたちを打ってわたしたちを対処し、わたしたちを神の建造のための生ける宝石として用意します——I ペテロ 2:4-5. I コリント 3:12 前半. 列王上 6:7. 参照、歴代上 6:31-32。
- B. 新エルサレムは、神と人と天のミングリングです。新エルサレムが天から出て神から下って来ることは、新エルサレムが天の要素で満たされており、完全に天的であることを暗示します——啓 21:2-3, 22. エペソ 1:3. 2:6. 創 28:17:
1. わたしたちは、召会、すなわち、地上にある神の家の中にいるとき、天の門に入ることができます。またわたしたちは天のはしごとしてのキリストを通して、天の事柄を見て、経験することができます——12, 17 節。
  2. ベテル、神の家、神の住まい、すなわち、天の門において、キリストは、地を天に結び付け、天を地にもたらすはしごです——12-17 節. ヨハネ 1:51。
  3. 今日わたしたちの霊は、神の住まいの場所であるので（エペソ 2:22）、それは今や天の門です。そこにおいてキリストははしごであり、わたしたち地上の民を天に結び付け、天をわたしたちにもたらします。
  4. このゆえに、わたしたちは霊に戻るときはいつでも、天の門を歩いて入り、天のはしごとしてのキリストを通して恵みの御座に触れます——ヘブル 4:16。
- C. 新約の啓示全体によれば、クリスチャンの働きの唯一の目標、また究極の結果は、新エルサレムであるべきです。それは召会の究極的完成であり、また神の永遠のエコノミーの究極的目標です:
1. 召会の墮落の主要な原因は、ほとんどすべてのキリストの働き人がそらされて、新エルサレム以外の多くの事柄を彼らの目標としてしまったということです。
  2. このゆえに、召会の墮落の下で勝利者となって主の召しに答えるために、わたしたちは消極的な事柄に打ち勝つだけでなく、それにもまして永遠の目標である新エルサレムに置き換わる積極的な事柄にも打ち勝つ必要があります。わ

わたしたちは、神の永遠の目標である新エルサレムに触れるときはいつでも、とても純粋である必要があります。わたしたちは不注意であってはなりません—— I コリント 3:12, 15-17。

3. 勝利者は、神の永遠のエコノミーの目標、すなわち、新エルサレムを、唯一で究極的な目標とすべきです。

## II. わたしたちは、新エルサレムの状態を見ることによって、建造された召会の状態景を見ることができます。新エルサレムは召会の究極的完成です：

- A. 建造された召会には、新エルサレムのように神の臨在があります——エゼキエル 4 8:35. 啓 21:3, 22:3：

1. 神と小羊が新エルサレムの宮であることが意味するのは、神と小羊であるご自身が都の中心となるということです。言い換えると、神は都と共におられ、都には神の臨在があるということです—— 21:22。
2. わたしたちはすべての聖徒と共に建造される時、神の臨在を持ちます。またわたしたちは単独であるときはいつでも、直ちに神の臨在を失います。
3. わたしたちはこの原則を保持しなければなりません。神の臨在があらゆる事柄の基準です。
4. わたしたちはすべてのことにおいて神の臨在に触れるなら、神が宮としてそこにおられ、神の建造がわたしたちと共にあることを見るでしょう。論争、議論、批判はわたしたちに神の臨在を失わせます。神の臨在は完全に聖徒たちの間にある一と調和にかかっています。
5. 神の臨在が、新エルサレムの中心です。ですから、わたしたちは召会において神の臨在を持たなければならないのです。わたしたちは宮としての神を持たなければならないなりません。

- B. 建造された召会には、神の支配があります：

1. 召会が建造されているなら、それには神と小羊の御座、神の支配があるようになります—— 22:1。
2. わたしたちはある召会における聖徒たちが建造されているかどうかを知りたいなら、彼らの間に神の御座、神の主権があるかどうかを見なければなりません。

- C. 建造された召会には、命の流れと供給があります：

1. 新エルサレムには、御座から流れ出る命の水の川があります。また川の両側に命の木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのります—— 1-2 節。
2. 建造された召会には、命の水があって人々の渇きをいやし、人々が潤されるようになります。また命の木の実があって、飢えた人々を満足させることができます。

- D. 建造された召会には、光があります：

1. 新エルサレムにおいて、神の栄光が光であり、小羊がそのともし火です—— 21:23, 22:5. 参照、エレミヤ 2:11。
2. 建造された召会において、聖徒たちを通してキリストの中で表現される神が光

です。わたしたちは建造された召会の集会に行くとき、照らされるのを感じます——ヨハネ 8:12. マタイ 5:14. 詩 73:16-17。

E. 建造された召会には、神と人とのミングリングがあり、死と復活を経過していません：

1. 新エルサレムの四つの側それぞれに三つ門があること、すなわち、三かける四が十二であることが暗示するのは、三一の神が被造物である人（四という数字は被造物を表徴する）とミングリングされているということです——啓 4:6。
2. 聖なる都の十二の門が十二の真珠であることが表徴するのは、死に打ち勝ち命を分泌する復活のキリストを通しての再生が、都への入口であるということです—— 21:21。
3. 門を通過して都の中へと入る人はだれでも、三かける四の産物、すなわち、神と人とのミングリングの結果、またキリストの中で死と復活を経過した新創造とならなければなりません——Ⅱコリント 5:17. ガラテヤ 6:15。
4. このことが見せているのは、わたしたちはいかなる天然なものも、地からのいかなるものも召会の中へともたらしすることはできないということです。真珠の門は人のすべての天然を閉め出します。
5. わたしたちが天然なもの、人の努力からのもの、「巧妙な」もの、人の手腕や手段から生じるもの、あるいは十字架を経過していないものをもたらしときはいつでも、わたしたちはまだ終わらされておらず、神は出る道をわたしたちに提供することができません——参照、Ⅱコリント 4:7-8。
6. 召会を建造することにおいてすべてのものは、十字架を経過しなければならず、キリストの中になければならず、神と人とのミングリングでなければなりません。これが新エルサレムへの入口、召会への入口です。この入口の性質と一致するものだけが、神の建造の中へともたらしされることができます。
7. ビジョンだけがわたしたちを救い出すことができます。わたしたちは天然の思想、識別力、手腕、能力、力量をすべて十字架にもたらし対処することを学ばなければなりません。これらすべてものが砕かれ、死と復活を経過し、真珠となった後、それらは神の建造の中へともたらしされることができます。

F. 建造された召会は、神の神聖な性質で満ちています：

1. 新エルサレムにはただ一つの大通りがあります。それは純金であり、神の神聖な性質を表徴します——啓 21:21 後半。
2. 命の水の川が「大通りの中央」を流れていることが表徴するのは、神聖な命が神聖な性質の中を流れ、神の贖われた民の日常生活のための唯一の道となるということです—— 22:1. Ⅱペテロ 1:4. ヨハネ 14:6。
3. わたしたちが自分自身を完全に否み、神の性質の中に生きるときはいつでも、わたしたちの奉仕は召会の建造という結果となるだけでなく、また人々がわたしたちのただ中に来るときに彼らを神の道に導きます。

G. 建造された召会には、神の表現があります：

1. 啓示録第 21 章は言いますが、都の城壁は碧玉であり、第一の土台は碧玉であり、都の光もまた碧玉のようです（18-19, 11 節）。さらに、御座に座している方には碧玉の外観があります（4:3）。こういうわけで、都の外観は神の外観です。
  2. 新エルサレムは、人における神の拡大、また人における神の満ち満ちた表現です。召会が真に建造されているなら、召会にも神の満ち満ちた表現があります。
- H. 建造された召会は、造り変える霊と、造り変えられる過程にある人々で構成されています：
1. 都の城壁は宝石で建造されています（21:19-20）。宝石は、創造されたものではなく、創造されたものが造り変えられることによって生み出されるものです。それは多くの圧迫を通しての長年にわたる構成を経過しています。圧迫、燃やされること、構成されることが、宝石へと造り変えられるために必要です。
  2. 召会生活においてキリストを愛する者が造り変えられることは、手順を経た三一の神の究極的完成としての造り変える霊によって（Ⅱコリント 3:18）、また愛する者の仲間たち、すなわち、聖徒たちを成就する働きを行なうキリストのからだの賜物のある肢体たちの協力をもって完成されます（エペソ 4:11-12, 雅 1:10-11）。
- I. 建造された召会には、境界、すなわち、「大きな高い城壁」がなければなりません——啓 21:12：
1. 城壁は分離と保護のためです。新エルサレムは絶対的に神へと分離されており、神の權益を完全に保護します。
  2. 神がご自身をわたしたちの中へと建造し、ご自身をもってわたしたちを構成すればするほど、ますますわたしたちは神へと分離され、邪悪な者のあらゆるものから保護されます。もし聖徒たちが召会生活において共に建造されているなら、神に属するものと人に属するもの、天的なものと地的なもの、新創造のものと旧創造のものを区別することは容易です。
  3. すべての信者は、彼らの分離と保護のためにそのような大きな高い城壁を必要とします——17 節。
- J. どうか主がわたしたちをあわれんでくださり、各地の召会が建造されているというこれらすべての状態を現しますように！

#### 務めからの抜粋：

##### 建造された召会には、神の臨在がある

さて、わたしたちはどのようにして召会が建造されているかを知ることができるのかを見てみましょう。言い換えると、建造された召会の状態とはどのようなのでしょうか？ 啓示録の最後の二つの章からいくつかの事柄を指摘したいと思います。

第一に、建造された召会には、神の臨在があります。啓示録第 21 章 22 節は、新エルサレムには宮がないと言います。なぜなら、神と小羊がその宮だからです。わたしたちは、旧約の時代に、宮がエルサレムの中心であったことを知っています。ですから、神と小羊がその宮であるということは、神と小羊であるご自身が都の中心になることを意味します。

言い換えるなら、神は都と共にあり、都は神の臨在があります。

これは、建造があるところに神の臨在があることを示しています。神の臨在は、建造の結果としてきます。わたしたちがすべての聖徒たちと共に建造されるときはいつでも、神の臨在があるというのが、わたしたちの経験ではないでしょうか？ わたしたちが単独であるときはいつでも、すぐに神の臨在の感覚を失うのではないのでしょうか？ 前の章で、三人の人がいつ福音集会をするかを議論している例証を用いました。彼らの一人は夜にしようと提案し、他の一人は、午後にと提案し、第三番目の人は朝にと提案しました。最終的に、彼らは行き詰まりました。わたしたちの多くは尋ねるでしょう。三つの異なった意見があるのですから、そのうちのどの意見が受け入れられるべきでしょうか？ 提案されたどの時間に、福音は宣べ伝えられるべきでしょうか？ わたしの答えは、神の臨在があるそのときに、福音は宣べ伝えられるべきです。三人の人たちが議論しているとき、最初の一人は尋ねるべきです、「わたしは夜七時半に集会を持つことを主張しているが、わたしには神の臨在があるだろうか？」。二番目の人も尋ねるべきです、「わたしは午後四時に集会を持とうとして争っているが、わたしには神の臨在があるだろうか？」。三番目の人も尋ねるべきです、「わたしは朝の六時半を提案しているが、わたしには神の臨在があるだろうか？」。このようにして、集会の時間は、全く神の臨在にしたがって決定されるべきです。神の臨在があるなら、朝であれ、午後であれ、夜であれ、いかなる時でも適切です。しかし、神の臨在がないなら、どの時も適切ではありません。

もしわたしたちがこの原則を知ってその中に生きるなら、召会の中で神に仕える間、わたしたちは兄弟姉妹と決して争わないでしょう。わたしたちは彼らと議論するときにはいつでも、神の臨在を失うことを知っています。神の臨在は、どんな妨害にも耐えることができなはとのようです。いったんわたしたちが口論するなら、それは飛び去ります。最近わたしが海外にいた時、公園や路上の様々な場所にさえ、多くのはとが飛び回っているのを見かけました。これらのはとは、人を恐れていませんでした。わたしたちが公園で座っている間、一群のはとがわたしたちの前にやって来ました。わたしたちが大声で話すなら、はとはすべて飛び去ってしまいますが、そこに座って、穏やかに話しているなら、一羽また一羽と、はとは再びわたしたちの近くまでやって来ます。兄弟姉妹よ、わたしたちが共に主に仕えているとき、神の臨在についてもそれと同じことが言えます。おそらく、あなたの理屈は正しく、あなたの提案は最も良いものであるかもしれませんが、わたしたちが議論してしまうので、聖霊ははどのように飛び去ってしまうのです。

ですから、わたしたちはこの原則を保持しなければなりません。神の臨在が、あらゆる事柄の基準です。何を行なうにしても、わたしたちは神の臨在を持っているかどうかに注意を払わなければなりません。わたしたちが自分の意見を表現しているときに、神の臨在を持っていますか？ わたしたちがある事柄を言うとき、あるいはある態度を取るときに、わたしたちは神の臨在を持っていますか？ わたしたちの提案や計画の中に、神の臨在があるでしょうか？ わたしたちはすべての事柄において神の臨在に触れるなら、神が宮としてそこにおられ、神の建造がわたしたちと共にあるのを見るでしょう。わたしたちが互いに口論するとき、わたしたちすべてが主のためであり、主張することは全く正当かもし

れません。しかし口論することによって、わたしたちは宮としての神、すなわち神の臨在を持たなくなります。むしろ、わたしたちは都を引き裂いてしまいます。

とても悲しいことに、わたしが訪問する多くの場所で、兄弟姉妹が互いに裁き合ったり、批判したりするのを耳にします。わたしが訪問するほとんどすべての場所で、兄弟姉妹に会うとき、彼らは裁いたり、批判したりする言葉をわたしに語ります。もし彼らが責任者に対して不満を持ち始めると、働き人を責めたり、召会に対して不満を持つようになります。一つのことが確かです。批判する兄弟や姉妹は、彼らの批判や裁きが正しいかどうかにかかわらず、最初に神の臨在を失います。彼らには神の臨在がありません。彼らは宮としての神を持っていませんし、これらの人々の間には建造がありません。

わたしたちが見なければならぬのは、召会において議論は重要ではないということえす。重要なのは神の臨在です。召会はあなたの十分な理由を提示することに都合のよい裁判所ではありません。それは、事実ではありません！ 召会の中では、あなたが議論すればするほど、ますます神はあなたから遠ざかってしまいます。たとえあなたの議論が百パーセント正しく、すべての良い理由があなたの側にあるとしても、あなたは議論すればするほど、ますます神から離れ去ってしまいます。

はとについてさらに話させてください。はとは、あなたの議論に説得力があるかどうかを注意しません。彼らは、あなたが大声を出すかどうか、またあなたが怖い顔つきをしているかどうかを気にしているのです。あなたは彼らを欺くことはできません。ですから、聖書がはとの目は最も公正なものであると言うのは、驚くべきことではありません。わたしは注意深い観察を通して、はとの目がその最も鋭い部分であることを知りました。人は、彼らをだますことができません。その日、わたしは公園にいた時、一羽のはとをわたしの所に来させようとして、さまざまな方法で引きつけようとしていました。しかしながら、わたしの手がほんの少しでも動くなら、はとは素早く逃げ去りました。わたしが手を静止しているとき、はとは再び戻って来ました。兄弟姉妹よ、わたしたちの中の聖霊の臨在もこのようです。その霊は、あなたがどんなに正しいかを顧慮しません。聖霊は、あなたの態度、あなたの意図、あなたの状態を気にしています。裁判所の中で、人はより大声で討論します。より大きいことが、有利なのです。しかしながら、召会の中で、人が大声で口論するなら、彼の損失はより大きくなります。わたしたちは議論すればするほど、ますます神の臨在を失います。新エルサレムにおける宮が神ご自身であることを思い出してください。神の臨在は都の中心です。ですから、召会の中で、わたしたちは神の臨在を持たなければならないのです。わたしたちは、宮としての神を持たなければなりません。それから、わたしたちは建造されて新エルサレムの状態を持つでしょう。

### **建造された召会には、神の支配がある**

第二に、召会が建造されているなら、それには神の御座、すなわち、神の支配があります。新エルサレムには、神の御座があります。この御座は、神の臨在の事柄であるだけでなく、神の支配の事柄でもあります。この建造の中に神の臨在があり、また神の主権があります。神の御座が設立されるので、神は彼の権威を行使することができます。ある召会

が建造されているかどうかを知りたいなら、わたしたちは彼らの間に、神の御座、神の主権があるかどうかを見る必要があります。

ときどき、あなたがある場所に行って、何人かの兄弟姉妹と集会するとき、あなたは彼らの間に神の御座があるのではなく、人の御座があると感ずることがあります。あなたが彼らの奉仕の集会に参加するとき、まるで彼らが御座に座しているかのように語っているのに、あなたは気づきます。そこで語る人はだれでも、御座の上にあります。一人が語り終える前に、別の人は彼を制して語ります。彼はこう言っているかのように「すぐに御座から下りて来てください。そして、その上にわたしを上らせてください」。彼ははっきりと言わないかもしれませんが、彼の態度とふるまいによって与える印象はこのようです。この人が終わると、別の姉妹が言います、「だれそれ兄弟、あなたが言ったことは、正しくありません」。彼女が語る間、彼女の声は非常に穏やかに聞こえるかもしれませんが、印象は同じです。「御座から下りて来てください」。これはわたしの想像ではありません。多くの時、神の子供たちと共に座している間、わたしはこのような状況を見ました。これは、神の御座、神の主権がそこにいることを意味します。そうではなく、すべての人が彼自身の座に座っているのです。いったんそのような状況があるなら、聖霊の臨在が確かにそこにいることをどうか思い出してください。これは、そのような場所において神の子供たちがまだ建造されていないことを証明します。

今日、多くのクリスチャンの団体がありますが、どこに神の御座があるのでしょうか？多くの場所において、あなたは少しの建造も見ることができません。その反対に、あなたは人の手腕と組織を見ます。人々はあらゆる種類の方法を用いて、召会の肢体の間で交流を促進し、また信者たちを説得します。わたしたちはこの種の交流や説得が建造ではないことを認めなければなりません。そうではなく、それは人が組織した働きです。ですから、そこには神の臨在がありません。そして、なおさら神の御座がありません。わたしが望むのは、わたしたちすべてがどこにいても、もし交流を促進することや説得することに依り頼んでいるなら、神の建造はもはやわたしたちの間にはないということを思い起こすことです。召会は、これらの方法に依り頼むことはできません。召会は神の中で建造されなければなりません。

新エルサレムにおいて、神ご自身が宮であり、神の御座がそこにあります。それゆえに、もし、ある召会が建造されているかどうかを知りたいなら、わたしたちは神の臨在、神の御座、神の主権が彼らの間にあるかどうかを見なければなりません。これが建造された召会の状態です。実際にあったことを話しましょう。ある兄弟がわたしに証しして言いました。「リー兄弟、わたしは二、三年前に救われて、召会の兄弟たちと集会していました。しかしながら、兄弟たちが共に集まった時、彼らはとても冷たかったのです。特に責任を担う兄弟たちと一緒に集まった時はそうでした。彼らは集会の前に人々にあいさつしませんでしたし、彼らは集会の後で人々と握手するために扉の所に行きませんでした。ですから、わたしは内側で幸いではありませんでした。その時、ある牧師がわたしを訪問しに来ました。彼はわたしに対してとても温かく、わたしを大いに気遣いました。このことは本当にわたしを感動させました。このゆえに、わたしは日曜礼拝に、彼の所に行くことにし

ました。わたしが行った時、礼拝堂の入り口に着くとすぐに、牧師はわたしにあいさつしに来て、わたしと握手しました。礼拝の後、その牧師は扉の所に行って、参加者すべてと握手しました。わたしはこのことがとても良いと感じました。ですから、わたしは定期的にそこに行くことにしました。しかし奇妙なことに、わたしはある期間その場所に行った後、なぜかわかりませんが、わたしの内側で神の臨在を失ってしまったと感じました。わたしは外側では心地良かったのですが、内側では何かを失ってしまったように感じました。ですから、その後わたしは兄弟たちの間に戻って来ました。奇妙なことに、わたしが戻った時、わたしの失っていた神の臨在が直ちに回復されました。もう一つ驚くべきことは、わたしが他のクリスチャンの集まりにいるときには気ままに話することができるかのようにですが、兄弟たちと共にいるとき、彼らはそうすることを禁じないのに、わたしの中で何かはわたしを規制し、気ままに何も語らせないようにします」。

これは神の臨在と神の支配の経験を見せています。ですから、召会が建造されているかどうかを決定するために、わたしたちは彼らの間に交流や温かみがあるかどうかを見るべきではありません。そうではなく、彼らの間には神の臨在と神の御座があるかどうかを、わたしたちは見なければなりません。

### 建造された召会には、命の流れと供給がある

第三に、建造された召会は、命の流れと命の供給があります。聖書は見せていますが、命の水の川が御座から流れていて、その川の両側には命の木があって、十二種の実を結び、その実は毎月みのります（啓 22:1-2）。これは神の臨在と神の支配の中に、命の流れがあることを示しています。ここに、人々の渇きをいやし、人々が潤されるようにする命の水があります。ここに、飢えた人々を満足させる命の木の実もあります。だれでもここに来る人は、彼が必要とする供給を得ることができます。

真に建造された召会には、確かにこのような状態があります。建造された召会において、あなたは神の命の流れと動きに触れます。そこに行く人はだれでも、供給を受けます。わたしは、わたしたちがみなこのような経験を持っていると思います。ある場所では、立ち上がって主に仕える兄弟姉妹は多くの教理を知りませんが、彼らは主の中で一であり、調和しています。あなたは彼らの集会に行くとき、主の臨在と、主の権威と、生ける水の動きを感じ取ることができます。ある兄弟は数句の言葉を語るために立ち上がる時、生ける水の流れを感じ、それがあなたの渇きをいやします。他の兄弟が証しし、またある姉妹が短い祈りをする時、あなたはまたその証しと祈りが、あなたを満足させる霊的な食物であると感じます。この場所において、あなたは建造された召会を見ます。

しかしながら、しばらくして、二人の有能な宣べ伝える者が、彼らの間に起こされました。彼らは二人とも雄弁で、多くの光を持っているようで、かなり賜物があるように見えました。しかしながら、これらの二人の兄弟たちが起こされたゆえに、召会は死で満たされました。なぜなら、これらの二人の兄弟たちは不和であり、互いに対抗していたからです。もし一人が主日にメッセージするなら、次の主日にはもう一人の兄弟が交代して語ります。彼は相手のメッセージを否定するメッセージを語ります。それから、その次の主日



の朝、最初の兄弟はもう一人に反対するメッセージを語ります。彼らの声は大きくはっきりしており、彼らの言葉は流ちょうで、彼らの話し方は卓越しています。また彼らの物語、例証、聖書からの引用は非常に適切で正しいのです。彼らのメッセージは真に魅力的ですが、あわれなことに、生ける水も生ける食物ありません。霊の中で感覚を持っているすべての人は、そこには神の臨在も神の祝福もないことをあなたに告げるでしょう。これは、そこには何の建造もないからです。

もし召会が建造を経験し、聖徒たちの間に調和があるなら、確かにその場所には命の水の流れと命の食物の供給があります。人々がこれらの信者たちのただ中に入るとき、彼らは良いメッセージを聞かないかもしれませんが、確かに彼らは生ける水と食物に触れます。また彼らは神の臨在と神の支配を感じます。彼らは潤され、満足し、安息を持ちます。

### 建造された召会には光がある

第四に、建造された召会には光があります。新エルサレムには光があります（啓 21:23）。この光は天然の光ではありません。それは太陽や月の光ではありません。この光は神ご自身です。神は光であり、キリストはともし火です。神はキリストの中でご自身の栄光を輝かし出します。そしてこの栄光が都の光です。都の中では太陽も月も輝く必要がないとは、この建造には天然の光の必要がないことを意味します。あるいは、わたしたちは彼らを通してキリストの中で表現される神が光であると言ってもよいでしょう。ですから、あなたがこのような一群の人々の間に来るとき、そこが輝いていると感ずるでしょう。これはちょうど光で満たされている集会所の中の状況のようです。電気の輝きは、蛍光灯を通して表現されて光となります。このゆえに、あなたがこのような部屋に入るとき、すべてのものは明らかです。あなたは、いす、座っている人々、入り口、廊下を見ることができます。あなたは、すべてのものははっきりと見ることができます。

あなたが建造された召会のただ中にいるとき、しばしばそこには光があり、輝いていると感ずるでしょう。あなたはある個人的な問題を持っており、祈ったり、聖書を読んだり、神のみこころを尋ね求めたりしても、どのように取り扱うかわからないかもしれません。しかし、あなたが建造された召会の集会に行き、彼らの間に座っているとき、あなたは照らされたと感じます。時にはただ祈りに耳を傾けることによって、あなたは内側で光に満たされます。時には彼らが歌っている詩歌によって、あるいはだれかが立って聖書から一節を読むことによって、あるいはただ集会の雰囲気によって、あなたははっきりとして、照らされます。これはそこに光があり、神の栄光が表現されているからです。この種の状況は、その召会が建造されていることを告げます。

神の現れは、完全に神の臨在にかかっています。そして、神の臨在は完全に聖徒たちの間にある一と調和にかかっています。この一と調和が建造です。もし兄弟姉妹の間に摩擦、意見、不調和、不一致があるなら、彼らのただ中に入るとき、あなたは光でなく暗やみを感じます。彼らのメッセージはとてもすばらしく、彼らの祈りは大声であるかもしれませんが、あなたはそこに何の光も感ずることができません。これは彼らの間に建造がないからです。

もし召会が建造されているなら、その召会には確かにこれらの四つの状態があります。第一に、それには宮としての神、すなわち、神の臨在があります。第二に、それには神の御座、すなわち、神の支配があります。第三に、それには神の命の流れと供給があります。そして第四に、それには神の光があります。もしわたしたちにこれらの状態があるなら、これはわたしたちが建造されていることを証明します。なぜなら、建造の中でのみこれらすべての神の祝福を持つことができるからです。（神の建造する働き、第7編）